

Weekly コラム

令和3年9月7日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

立ち止まって考えてみる

2021年3月26日、全国で初めて埼玉県で、エスカレーターは立ち止まった状態で利用しなければならない、とする「エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」が成立しました。県は、罰則はありませんが周知が不十分な管理者に指導や助言、勧告ができると定めています。日本といわず世界でも慣習として深く根付いている片側あけのルール。今までも問題視されてはうやむやになっていますが、これを機に変わっていくのでしょうか。

エスカレーターにおける片側あけが初めて出現したのは、第2次世界大戦時の英国・ロンドンの地下鉄だと言われています。当時の英国は戦時体制下。社会全体で効率向上が求められていた時期で、その施策の一環でした。日本で片側あけが始まったのは1967年頃、大阪・阪急電鉄の梅田駅が最初で、その後、1980年代後半から90年代に掛けて東京などでも同様の現象が見られるようになりました。片側あけは、英国や日本以外でも広く普及しています。米国やフランスなどでも見られるルールです。中国でも北京や上海など都市部では五輪や万博を機に当局が要請し、韓国でもワールドカップを機に片側あけの導入が進みました。米、英、仏、中、韓、大阪は右に立って左を空けますが、オーストラリアやシンガポール、東京は左に立って右を空けます。

近年、片側あけ廃止の声が高まっているのは「危ないから」「エスカレーターは片側に立つように設計されていない」といった理由からです。なるほど、事故件数は年間1475件と

決して少なくありません。一方で、効率が要求される国や地域・場所においては片側あけをするメリットも確かにあると思います。これらの意見にはどちらも一理あり一方が間違っているというものではありません。そこで、一律に廃止するか続行するかという二極論ではなく、片側あけを使い分けることで問題とストレスをある程度、解消することはできないのでしょうか。デパートやショッピングセンター、文化施設、観光施設など急ぐ必要のない場所では片側あけをやめ、駅などの急ぐ人が多い場所や時間は片側あけを継続するといった具合です。ただ、こういう生活の中のルールを変えていくには、非常に時間と労力を要します。冒頭に紹介した埼玉県の条例も、本気でルールとして運用するならこれが定着するまでは相当のマンパワーと覚悟が必要になると考えます。

これからの時代は、社会ルールも多様性を前提とした設計が欠かせません。片方の立場だけを主張する極端な意見をぶつけ合っていると、世の中はますます生きにくくなります。みんなが折り合いをつけて尊重しあうことで暮らしやすい社会になることを願います。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。